

## 11月30日(土曜日)

会場	MOホール(3F)	A(1F)	B(2F)	C(2F)	D(2F)	E(2F)	1F ロビー
午前の部 I 9:30 - 11:00	セッション 1 ODA(1)	セッション 2 経済開発	セッション 3 災害(1)	セッション 4 教育開発(1)	セッション 5 (企画)大学における開 発教育とディシプリン		
午前の部 II 11:15 - 12:45	セッション 6 ODA(2)	セッション 7 (企画)環境リスク管理と リーダー育成	セッション 8 人道支援とコミュニティ	セッション 9 教育開発(2)	セッション 10 社会開発(1)		11:00 - 13:30 ポスターセッ ション
12:45 - 13:30	昼食休憩						
午後の部 I 13:30 - 15:00	セッション 11 ODAと経済発展	セッション 12 (企画)JST・JICA地球規 模課題対応国際科学技術 協力事業「アフリカサヘル 地域の持続可能な水・衛 生システム開発」	セッション 13 (企画)紛争影響国に おける効果的な地方行 政強化・コミュニティ開 発	セッション 14 教育開発(3)	セッション 15 International Development (English Session)		
15:15 - 16:30	総会(会場:MOホール 3F)						
16:45 - 18:15	パネル・ディスカッション「アフリカの子どもの未来像:保健医療・教育分野の開発がもたらしたもの」(会場:MOホール 3F)						
18:30 - 20:00	懇親会(会場:匠)						

## 12月1日(日曜日)

会場	MOホール(3F)	A(1F)	B(2F)	C(2F)	D(2F)	E(2F)
午前の部 I 9:30 - 11:00	セッション 16 (企画)ポストMDGs 新 しい課題と開発	セッション 17 (ラウンドテーブル)開発援 助におけるインフラ整備プ ロジェクトの開発効果検証 に関する社会実験の必要 性と可能性	セッション 18 保健医療	セッション 19 (企画)障害包摂的な開発の ための取り組み	セッション 20 社会開発(2)	セッション 21 持続的な農村開発と 女性支援
午前の部 II 11:15 - 12:45	セッション 22 (特別セッション)韓国 国際開発協力学会 (KAIDEC) との共同セッション	セッション 23 開発とビジネス	セッション 24 災害(2)	セッション 25 障害と開発	セッション 26 (企画)開発実践と「感 情」	セッション 27 持続可能社会
12:45 - 13:30	昼食休憩					
14:00 - 16:00	国際開発学会市民公開講座「ボルネオへの恩返し - 北の動物園が、南の野生生物レスキューセンターを支援する理由 - 」 (会場:MOホール 3F) 13:30開場					

11月30日(土曜日)

午前の部 I (時間:9:30 - 11:00)

## セッション 1: ODA(1)

会場: MOホール(3F)

題目	発表者
1 韓国におけるODA供与決定の要因に関する研究	朴成勲(早稲田大学大学院)
2 ハーパー保守党政権下のカナダのODA政策	高柳彰夫(フェリス学院大学)
3 日本の国際教育援助(協力)政策の歴史的展開 -戦後から今日まで-	上別府隆男(東京女学館大学)
4 日本のODAの源流に関する歴史比較制度分析	下村 恭民(法政大学)

## セッション 2: 経済開発(1)

会場: A(1F)

題目	発表者
1 カスピ海周辺地域における石油及び天然ガスの輸出戦略と持続可能性 -アゼルバイジャンのパイプライン・プロジェクトを事例として-	安部雅人(東北大学大学院)
2 東南アジアにおける経済統合と越境開発 -タイ・ミャンマー国境におけるマキラドーラの形成に関する考察-	喜田徹生(法政大学)、藤倉良(法政大学)
3 クロアチアのEU加盟 -域内貿易および西バルカン諸国の国内諸制度改革への含意-	渡辺松男(新潟県立大学)
4 地域間輸送費が都市失業に与える影響の理論的考察	竹内信行(神戸大学)

## セッション 3: 災害(1)

会場: B(2F)

題目	発表者
1 JICA事業を通じた東日本大震災復興への貢献について -市民参加協力による内外一元化の可能性-	永見光三(JICA)
2 東日本大震災における半島部被災地の復興を開発の視点から考える	秋吉恵(早稲田大学)
3 Independent Simple Floods Warning System for Developing Countries: A comparative case study between Nagaoka, Japan and Manila, the Philippines	Kiyoto KUROKAWA (Ritsumeikan University)

## セッション 4: 教育開発(1)

会場: C(2F)

題目	発表者
1 メキシコの学校中退における家庭的要因 -NGOへの聞き取り調査から-	加藤由里子(お茶の水女子大学大学院)
2 Transition of Policy on Community-Based Schools in Pakistan from 2000 to 2009	Yasuko ONO (Nagasaki University)
3 モンゴル国ホブド県の小学校におけるICT活用の現状 -学校長と教員の視点から-	小野寺純子(東京工業大学)、山口しのぶ(東京工業大学)
4 Mixed-Methods Impact Study of One Laptop Per Child Initiative: A Case of Khovd Province in Mongolia	Shinobu YAMAGUCHI(Tokyo Institute of Technology)、AuxillosJohn Yam (Tokyo Institute of Technology)、Junichi TAKADA(Tokyo Institute of Technology)、SUKHBAATAR Javzan(Mongolian Institute of Finance and Economics)

## セッション 5: (企画)大学における開発教育とディシプリン

会場: D(2F)

題目	発表者
1 開発教育手法の社会学専門教育との接合 -その効果と課題-	佐野麻由子(福岡県立大学)
2 多元性の中での開発教育・社会学教育のゆくえ -大学教育におけるグループディスカッション手法の経験から-	宮内泰介(北海道大学)
3 ボランティア実践をともなう開発教育の特徴 -早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの事例-	岩井雪乃(早稲田大学)
4 日本の大学教育におけるフィールドワークの可能性 -銀行型教育の「知」、対話からの「理解」を超えて-	鈴木直喜(清泉女子大学)

11月30日(土曜日)

時間:11:00- 13:30

## ポスターセッション

会場:1F ロビー

	題目	発表者
1	開発途上国における円借款事業の遅延要因分析	村嶋英一 (JICA)、吉田直広 (JICA)、西村直紀 (JICA)
2	コミュニティー林業におけるリンケージの役割	藤井昭則ヴィルヘルム (東京大学大学院)、ス リィティ・パンダリ (フォレストアクション・ネ パール)
3	人々の認識の捉え方 -マラウイ北部農村における社会調査 法の実施のためのデータ収集法の工夫-	谷島緑 (北海道大学)
4	ミャンマーの農村地域における社会経済状況の実態 -現地 調査結果を基に-	Aye ChanPwint (熊本学園大学)
5	Development of Instrument to measure ICT skills of primary school teachers in Mongolia	OyunTsogtsaikhan (東京工業大学大学院)
6	シリア難民による学校運営と教員の役割 -トルコ共和国ア ンタキヤ市の事例から-	山本香 (大阪大学大学院)
7	アフリカにおける中国のプレゼンス -西アフリカの孔子学 院を中心に-	尹曼琳 (金沢大学大学院)
8	ケニアにおけるマサイ小学校生徒の学習動機	野村理絵 (大阪大学大学院)
9	ケニア小学校教師の教育観の形成過程	佐久間茜 (大阪大学大学院)
10	産業集積におけるODAの役割 -タイ東部臨海工業地帯の事例 -	鈴木沙織 (東京大学大学院)、山口健介 (東京大学)
11	中国四川大地震による中国の社会変容に関する考察	大谷順子 (大阪大学)、張玉梅 (大阪大学大学院)

11月30日(土曜日)

午前の部 II (時間:11:15 - 12:45)

## セッション 6: ODA(2)

会場:MOホール(3F)

題目	発表者
1 環境ODAと気候変動資金メカニズム:実績・課題・実績・課題・新たなアプローチ	森晶寿(京都大学)
2 Aid is Good for the Poor: Development Aid in a Globalized World	Shigeru OTSUBO (Nagoya University)、Yumeka HIRANO (Graduate School, Nagoya University)
3 我が国政府開発援助(ODA)への民間軍事会社(PMSC)活用の可能性	小野圭司(防衛省防衛研究所)
4 援助政策をラディカルに考え直す	平野 克己(アジア経済研究所)

## セッション 7:(企画)環境リスク管理とリーダー育成

会場:A(1F)

題目	発表者
1 リスク管理と持続可能な自然資源利用に向けた統合的環境社会評価	小林正典(横浜国立大学)
2 アジアにおける生態系荒廃と食・健康リスク	嘉田良平(総合地球環境学研究所)
3 Environmental Risks and their Impacts on Food and Health Security in Laguna Lake Watersheds, Philippines	Roberto F. Rañola (University of the Philippines Los Baños College of Economics and Management)
4 統合的生態系管理としての里山保全とその多面的機能	小池治(横浜国立大学)

## セッション 8:人道支援とコミュニティ

会場:B(2F)

題目	発表者
1 紛争後社会における住民主体の資源管理:東ティモールにおける慣習法「タラ・バンドウ」	宮澤尚里(東京大学)
2 複雑化する国際環境とわが国の国際人道救援の変遷	喜多悦子(笹川記念保健協力財団)、青山温子(名古屋大学)、北林晴美(JICA)、柳沢香枝(JICA)
3 われわれの物語を創るために -コミュニティ開発におけるチェンジエージェント-	柴田英知(歩く仲間)

## セッション 9:教育開発(2)

会場:C(2F)

題目	発表者
1 家庭背景が学業成績に関する原因帰属と自己効力感に与える影響 -ケニア・エルドレッド市を事例に-	子浦恵(お茶の水女子大学大学院)
2 世帯背景からみる中等学校進学機会 -ケニアのキベラに暮らす子どもたちを追跡して-	大場麻代(大阪大学)
3 途上国教師の持つ授業文化に関する研究 -国際比較に向けた枠組みの検討-	中村聡(広島大学)、前田美子(大阪女学院大学)
4 マラウイにおける中等学校教師の社会的地位の変遷とその意味づけ -ライフストーリー手法を用いた分析-	日下部光(大阪大学大学院)

## セッション 10:社会開発(1)

会場:D(2F)

題目	発表者
1 内モンゴル自治区における乳製品の高付加価値化の可能性 -ホルチンマンハン地域の牛乳購入意識調査の結果をもとに-	白玉香(横浜国立大学大学院)、藤巻碧海(横浜国立大学大学院)、秋庭はるみ(横浜国立大学)、太田海香(横浜国立大学大学院)、石橋健一(名古屋産業大学)、松田裕之(横浜国立大学)
2 ミャンマー 寺子屋(僧院学校)における学童期から青年期の 昼食摂取状況と体格、貧血の関連	荒木未希子(帝京大学)
3 ネリカ普及における受益者は誰か? -中央ベナン・ソエ村の事例から-	横内智則(東京大学大学院)
4 Impact of Environmental Degradation on Food Consumption Patterns in Laguna Lake Watershed, Philippines	Wuyun Gong (Graduate School, Yokohama National University)

11月30日(土曜日)

午後の部 II (時間: 13:30 - 15:00)

## セッション 11: ODAと経済発展

会場: MOホール(3F)

題目	発表者
1 タンザニアにおける開発援助の構造化と再生産	藍澤淑雄(秋田大学)
2 日伯連携による三角協力の現実 - プロサバンナを事例として -	船田クラーク・センさやか(東京外語大学)
3 援助モデルの選択要因 - DACモデル VS 南南協力モデル -	小林誉明(横浜国立大学)
4 機能的所得分配の変化とその要因 - インドネシア農業と製造業における労働分配率の分析 -	本台進(神戸大学)

## セッション 12: (企画) JST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力事業「アフリカサヘル地域の持続可能な水・衛生システム開発」

会場: A(1F)

題目	発表者
1 資源循環型サンテーションシステムの導入戦略 - ビジネスモデル構築というアプローチ -	牛島健(北海道大学)、船水尚行(北海道大学)
2 ブルキナファソにおける主婦層対象のマイクロクレジット	箱山富美子(明治学院大学)
3 アフリカの伝統的農民を開発アクターとして認める - ポスト・モダンの社会と国家、参加型民主主義の模索 -	鍋島孝子(北海道大学)

## セッション 13: (企画) 紛争影響国における効果的な地方行政強化・コミュニティ開発

会場: B(2F)

題目	発表者
1 紛争影響地域における参加型開発の実践	島田具子(JICA)、小池治(横浜国立大学)
2 紛争影響国における公共サービスの提供のための政府の機能強化	小向絵理(JICA)、島田具子(JICA)
3 プロジェクト研究 紛争影響国における地方行政強化・コミュニティ開発の教訓 中間報告	平林淳利(株式会社HIRA)
4 コミュニティ開発を通じた地方行政強化のアプローチ - UNDPとJICAの比較 -	畝伊智朗(JICA)

## セッション 14: 教育開発(3)

会場: C(2F)

題目	発表者
1 EFA/MDGsに基づく教育開発戦略および教育プロジェクトの妥当性に関する考察 - 中米ホンジュラス共和国における小学校児童の縦断的調査から -	芦田明美(神戸大学大学院)
2 ODAにおける国際教育技術協力の「持続性」- 目的・持続性指向のプロジェクト設計の必要性 -	田中紳一郎(JICA)
3 農村における質の高い教育を持続的に提供するための手法の模索 - コロンビアのエスクエラヌエバとグラミンカルダスを事例として -	鈴木隆子(九州大学)
4 高等教育における国際開発・協力の潮流と課題 - 日本は何ができるのか? -	米澤彰純(名古屋大学)

## セッション 15: International Development (English Session)

会場 (Venue): D(2F)

題目 (Titles)	発表者 (Presenters)
1 Pro-Poor Institutions for Development Effectiveness: Cross-Country Empirical Analyses and a Case Study of Ethiopia	Yumeka HIRANO (Graduate School, Nagoya University)、Shigeru OTSUBO (Nagoya University)
2 Promoting Agroindustry-led Development under Globalization: Simulations with a CGE model for the Democratic Republic of Congo	OTCHIA Christian Samen (Graduate School, Nagoya University)
3 Reconsidering Trade and Poverty Nexus in Thailand	Panisa VISHUPHONG (Nagoya University)
4 Spatial Dimension of Innovation in Developing Countries: The State of Innovation in the 17 Regions of the Philippines	DUMAYAS ARIANNE DELAROSA (Graduate School, Chuo University)

12月1日(日曜日)

午前の部 I (時間:9:30 - 11:00)

## セッション 16:(企画)ポストMDGs 新しい課題と開発

会場:MOホール(3F)

題目	発表者
1 ポストMDGsの新しいプロセス	外務省地球規模課題総括課課長
2 環境と開発	古沢広祐(NPO「環境・持続社会」研究センター)
3 災害と開発	永石雅史(JICA)
4 障害と開発	Kamal Lamichhane(JICA)

## セッション 17:(ラウンドテーブル)開発援助におけるインフラ整備プロジェクトの開発効果検証に関する社会実験の必要性と可能性

会場:A(1F)

座長:西宮宜昭(JICA)	コメンテーター:1. 佐藤寛(アジア経済研究所) 2. 藤原章正(広島大学)
---------------	--

## セッション 18:保健医療

会場:B(2F)

題目	発表者
1 人口・リプロダクティブヘルス分野の国際的潮流と日本のODA	北林春美(お茶の水女子大学)、青山温子(名古屋大学)、江啓発(名古屋大学)、喜多悦子(笹川記念国際保健協力財団)
2 ベトナムにおける公的医療保険の拡大とその影響 -適切な制度設計にむけて-	島村靖治(神戸大学)
3 カンボジア村落部における雨水使用の現状と対策に関する研究 -ヒ素汚染地域を中心として-	眞子岳(東洋大学)
4 インド農村部における母親の飲料水煮沸行動の要因	佐藤壮夫(東京大学大学院)、山路永司(東京大学)

## セッション 19:(企画)障害包摂的な開発のための取り組み

会場:C(2F)

題目	発表者
1 CBRの到達点としてのCBRガイドラインの概要と日本の国際活動における使用の検討	上野悦子(日本障害者リハビリテーション協会)
2 JICAにおける障害者研修と文化人類学的フィールドワークのコーポレーション -コートジボワールにおけるろう者・手話言語研究の振興-	亀井伸孝(愛知県立大学)
3 途上国における障害者の権利条約実現可能性 -タイ、フィリピンマレーシアの障害者運動の視点から-	千葉寿夫(首都大学東京大学院)
4 フィリピンの障害児教育法の現状と問題点 -障害当事者が直面する諸問題-	森壮也(アジア経済研究所)

## セッション 20:社会開発(2)

会場:D(2F)

題目	発表者
1 国際移動をしたスター研究者と出身途上国との繋がり -出身国と国際共同研究をする誘因を中心として-	加藤真紀(横浜国立大学)
2 フェアトレードタウンを通じた持続可能な都市形成の可能性 -フェアトレードタウン形成に必要な要素の検討-	渡来絢(川崎市環境総合研究所)
3 サモア独立国における社会生活基盤の維持 -伝統儀礼の実践から-	飯森文平(東京農業大学)
4 国境を超えて共振する社会運動 -世界社会フォーラムは、「オルタナティブグローバリゼーション運動」と「怒りの連鎖」運動の結節点になるのか-	毛利聡子(明星大学)

## セッション 21:持続的な農村開発と女性支援

会場:E(2F)

題目	発表者
1 「内発的発展」と「自立」の再考 -マラウイ小農村落の内発的発展を目指した外的援助の取り組みの事例-	三須裕子(ロンドン大学大学院)
2 ネパールにおける女性自助組織とエンパワーメント -女性組織活動に焦点を当てて-	佐藤希(神戸大学大学院)
3 生業多様化の議論の再検討 -エチオピア農村部の若い女性の事例から-	児玉由佳(アジア経済研究所)
4 地方分権化下のタンザニアにおける県農業開発計画の現状と課題 -ムビンガ県の事例-	黒崎龍悟(福岡教育大学)

12月1日(日曜日)

午前の部 II (時間:11:15 - 12:45)

セッション 22:(特別セッション)国際開発協力学会(KAIDEC)と  
の共同セッション (KAIDEC-JASID joint session)

会場(Venue):MOホール(3F)

Moderator: ShokoYAMADA (Nagoya University)	
題目 (Titles)	発表者 (Presenters)
1 A Study on International Development Education in Korea	Sang-Hyup Shin (President of KAIDEC)
2 JICA's Programs of Educational Cooperation toward post-EFA	Shinichi Ishihara (JICA)
3 KOICA's Educational Training Program: Collaboration, Complication and Contribution	Eun Mie Lim (Chair of the International Relations Committee at KAIDEC)
4 A Forum of University - JICA Cooperation and Its Contribution	Yuto Kitamura (University of Tokyo)
5 Collaboration between the Academic and NGOs in International Development: Impact on South Korean Aid Policy from 1995 to 2007.	Kyung Yon Moon (Vice Chair of the General Affairs Committee at KAIDEC)

セッション 23:開発とビジネス

会場:A(1F)

題目	発表者
1 マイクロファイナンス活動における「Vittukkooduthal」の意義 - インド、Tamil Nadu州農村におけるSelf Help Groupの事例研究 -	島田めぐみ(東京大学大学院)
2 マイクロファイナンスの農村社会構造に対する副次的影響	西村直紀(JICA)
3 カンボジアのストリート・ビジネス	廣畑伸雄(山口大学)
4 合弁企業によるソーシャル・ビジネスの有効性の分析	大杉卓三(九州大学)、アシル アハメッド(九州大学)

セッション 24:災害(2)

会場:B(2F)

題目	発表者
1 モンゴルの自然災害への牧畜民のレジリエンス向上に関する分析 - 2009年から2010年のドンドゴビ県で発生した“ソド”の事例から -	中村洋(地球・人間環境フォーラム/法政大学大学院)
2 Toward reducing cyclone vulnerability and promoting resilience in Bangladesh	Akira MURATA(JICA Research Institute)
3 大規模災害における国際支援受入調整システムに関する研究 - インド洋津波災害におけるアチェの事例より -	阪本真由美(人と防災未来センター)

セッション25:障害と開発

会場:C(2F)

題目	発表者
1 JICAボランティア事業における“障害と開発”のメインストーリーミング	土橋喜人(JICA)、荒征文(いわき明星大学)、渡邊雅行(常葉大学)
2 障害と教育の収益率 - ベトナムのデータを用いた実証分析 -	山崎泉(和歌山大学)、水野谷優(香港中文大学)
3 スポーツを通しての開発とアスリート保護	山田理恵(鹿屋体育大学)

セッション 26:(企画)開発実践と「感情」

会場:D(2F)

題目	発表者
1 怒りの「管理」 - ソロモン諸島における開発実践と感情 -	関根久雄(筑波大学)
2 共感と合理 - 南スラウェシ農村の灌漑管理における水迫人マンドロ・ジェネの事例より -	小國和子(日本福祉大学)
3 感情を耕す人々 - 日系ブラジル人専門家の暗黙知を読み解く -	佐藤峰(JICA研究所)

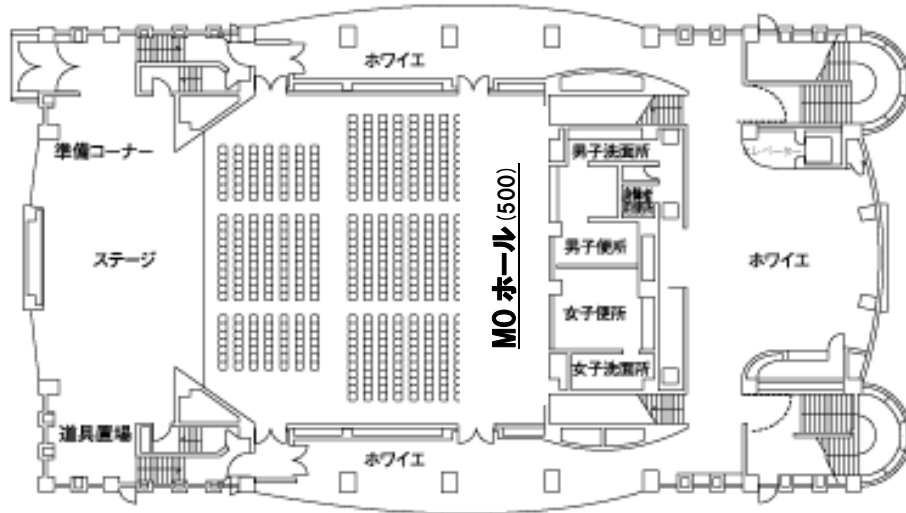
セッション 27:持続可能社会

会場:E(2F)

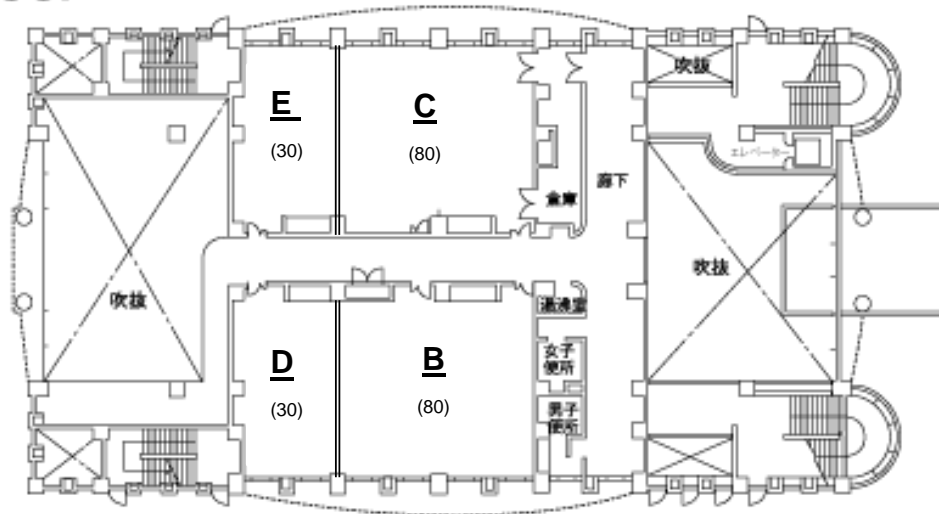
題目	発表者
1 アフリカのアスファルト道路の物理的試験「公のお墨付き」を考察する - ウガンダのケース -	浅野英一(摂南大学)
2 インドネシアにおける貧困指標と電気料金	宇田川拓雄(北海道教育大学)
3 途上国の再生可能エネルギー促進におけるドナーの役割 - ベトナムの事例より -	清水規子(地球環境戦略研究機関)、森田香菜子(慶應義塾大学)、千葉洋平(地球環境戦略研究機関)
4 JICA低炭素都市研修を実施して - 北九州市の低炭素化施策の研修教材化とその途上国諸都市への発信 -	前田利蔵(地球環境戦略研究機関)

会場案内図 (大阪大学 コンベンションセンター)

3 floor



2 floor



1 floor

